研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
C-710		17-095	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門　三浦克之

題名（原題／訳）

Effect of alcohol consumption and smoking on disease damage in systemic lupus erythematosus: data from the Korean Lupus Network (KORNET) registry.

KORNET レジストリによる全身性エリテマトーデスに対するアルコール消費と喫煙の影響について

執筆者

Kim SK, Lee SS, Choe JY, Park SH, Lee H.

掲載誌

Lupus. 2017 Dec;26(14):1540-1549. doi: 10.1177/0961203317709346.

キーワード	PMID
SLE、アルコール、喫煙、皮膚病変、SLICC インデックス	28478697

要　旨

目的：

全身性エリテマトーデス（SLE）の疾患活動性や皮膚障害程度と飲酒、喫煙との関連について検討した。

方法：

2014 年から 2016 年に登録された韓国の SLE レジストリ（KORNET）の 505 人の患者を対象とし、疾患活動性は SLE Disease Activity Index 2000 (SLEDAI-2K) で、皮膚病変に関してはSystemic Lupus International Collaborating Clinics/American College of Rheumatology (SLICC/ACR) damage index で評価し、多変量ロジスティック解析を用いて飲酒、喫煙と皮膚病変との関連について検討した。

結果：

SLEDAI-2K、SLICC/ACR の両者とも、喫煙、飲酒の程度による差を認めなかった。しかし、現在飲酒者において非飲酒者と比較すると皮膚障害はより多く（p=0.02）、飲酒量との関連が認められた（Odds Ratio: 4.048, 95%CI: 1.251-12.102）。非飲酒者と比較し、少量飲酒（1-5 杯/週）、多量飲酒（6 杯/週）のいずれも、皮膚障害との有意な関連を示した（各々p=0.033、p=0.027）。飲酒と喫煙状況をペアワイズ比較すると、非飲酒者、および非喫煙者と比べて、現在飲酒者では現在の皮膚障害との有意な関連が認められた（OR:3.513、95%CI:1.130-10.920、p=0.030）。

結論：

現在飲酒がある場合、SLE の皮膚障害の進展に影響がある可能性が示唆された。なお、喫煙習慣と SLE の皮膚障害との関連は認められなかった。